

「みんな できる・わかる・たのしい体育の実践」

～ 子どもと応答関係をつむいでいく授業づくり ～

子どもたちは生きづらさ、辛さ、苦しさを抱えて生活しています。そんな子どもの“つらさ”“苦しさ”に私たちはどれだけ目を向け、わかろうとしているのでしょうか。コロナ禍での制限がなくなった今でも、顔の半分をマスクで覆って自分の表情を見せようとしない子どもたちがいます。「ありのままの自分」を出せずに、大人や友だちに対して上手に取り繕いながら、生きづらさを押し殺しているように感じます。また、タブレットの使用により、「問いと答えの“間”」が軽視され、「学んだつもり」「わかったつもり」といった皮相的な学びが行われています。映像だけでは理解できず、「集団の学びから置き去りにされている子ども」の姿に気づかずに学習が進められてはいないでしょうか。

教師や子ども一人ひとりが見えている世界がちがっているのは当然のことであり、それらを“ともに”共有し、理解し、受け入れながら、ともに“居心地のいい”授業づくりをしていく必要があります。そのため、今回の兵庫支部研究大会では、「目の前の子どもの実態からつくる体育科の授業」と「子どもたちの声を紡ぎだしていくこと」さらには「子どもと教師、子ども同士の合意形成のあり方」を考えていきます。また、子ども理解や合意形成を大切にしたとき「発達段階における子どもの見とり」については大きな課題といえます。

そこで、本研究会は3実践「特別支援・小学校」からの実践報告を通して、それぞれの教材価値や子どもの見取り、自治のあり方について議論を深めていきます。

職場のお仲間をお誘いのうえ、ぜひご参加ください。ともに語り合い、学び合しましょう！

期日 : 2024年6月29日(土)・30日(日)

会場 : 播磨町中央公民館
(加古郡播磨町東本荘1-5-40)

アクセス: 車⇒第二神明道路「明石西IC」
から約10分
車以外⇒山陽電車「播磨町駅」から徒歩約3分
JR「土山駅」から徒歩約15分



参加費(仮): 全日2000円 1日1000円 ※学生は全日1000円、1日500円

開会方式: 両日とも対面の実施

宿泊について: エバーホテル(加古郡播磨町南野添3-1-1)

宿泊費: 6600円(朝食あり) 宿泊申し込みは6月中旬

★交流会: 創作家庭料理「木味土味」(エバーホテルから徒歩2分)

問い合わせ: 小松 北斗 携帯: 080-9476-9888
mail: hokuhoku925@yahoo.co.jp

第二次案内

【日程及び実践報告について】

29日 (土)	12:30	13:00	13:15	14:30	15:45	17:00	18:30
		受付	開会 発題	実践報告① 助言	実践報告② 助言	実践報告③ 助言	交流会
30日 (日)	9:30			11:00	11:15	12:00	
	実践報告①②③ 分散会				全体会 閉会		

※1日目の実践報告は全体で、2日目は各実践報告に分散して行います

実践報告①		
報告者	小山 紗知 (神大付属特別支援学校)	「蹴る」動きを引き出す教材づくり
助言者	大宮 ともこ (日本福祉大学)	子どもの興味・関心や五感から「わかる・できる」を読み取る ～集団につないでいく場の設定や取り組みについて考える～
<p>実践の概要 特別支援学校小学部でのペットボトルサッカーの実践です。「さあ、これを蹴るよ」と提示しても、場の設定や道具から「蹴る」にはすぐにつながらない子どもたち。「どうしたら蹴ることがわかって楽しめるのだろう」というところから出発しました。場の設定や蹴るもの自体の工夫等、子どもとやってみてまた作り替える中で、「蹴る楽しみ」にも様々あることや、教師も遊ぶ視点を持つことなど、教材づくりに関して大事なことを報告します。</p>		
実践報告②		
報告者	岨 和正 (報告1) 藤江 直樹 (報告2) (洲本市立洲本第3小)	みんなで共に身体の実践運動をどのように高めていくのか
助言者	岨 和正 (淡路市立大町小)	身体表現を通じてお互いのからだを見つめ合うことの大切さを考える
<p>実践の概要(体づくり運動や器械運動の実践を中心にして) 実践報告(1) 小学校1年生とマット運動に取り組んで(側転の指導と連続技づくり) 実践報告(2) 子どもらが自分の身体を“見つめる”ことを深める授業(小5) 子どもたちの日常生活での身体接触やコミュニケーションが益々少なくなっています。こういう中で、子どもたちの身体の関係づくりを密にしていく必要を感じています。そこで、この分散会では①みんなが技をできるようになるための感覚や技を探求して交流して体得するには「②教材(運動)の学習を通じて子ども達が自分の身体を見つめられるようになるには」を柱にして話し合いを進めていきます。</p>		
実践報告③		
報告者	岨 賢二 (南あわじ市立松帆小)	クラブ単元学習を通して“共存のための協同”を考える ～「自分が味方をつらくさせた」小6ホールディングバレー～
助言者	神谷 拓 (関西大学)	グループ学習からクラブ単元へ ー自治と共同・協同を可視化する意義ー
<p>実践の概要 クラブ(部活動)は本来、同じ目的をもった人が集まり自分たちで課題を解決していく「共存のための協同」という理念のもとに活動が進められてます。本実践では、体育科の授業において、クラブの特質を児童の学習内容に設定していきました。「社会体育で問題を抱える」「中学校に進学して部活動に所属する」児童が、自分たちの思いや願いのもとにクラブを立ち上げ、課題を解決していく中で組織性や社会性とどう向き合っていたのか。児童の感想文や活動を読み解きながら検討していきます。</p>		